

第4章 環境影響評価の項目、調査、予測及び評価の手法 4.4.2 予測方法

大気汚染の調査個所を増やしてください。

理由

2018年6月、「大阪から公害をなくす会」が初めて夢洲のNO₂調査に取り組みました。30個のカプセルを設置した結果、平均は28ppb～39ppbでしたが、40ppb以上も5ヶ所ありました。特にコンテナヤードの周辺が40ppb以上と長居公園郷土の森（16ppb）の2倍もあり、汚染のひどい状況でした。WHOは2014年に、大気汚染が発がん性のリスクが明らかになったと発表しています。今回の万博の理念から見ても、大気汚染の被害についての調査を綿密にすべきです。方法書によると、調査箇所は、一般環境1地点、沿道環境3地点とありますが、各区で1地点での調査はあまりにも少ないのではないのでしょうか。1地点でよいと判断した理由を教えてください。